

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 19 (R3. 9. 27発行) 文責 校長 福田雅也

「幸せになれる子」を育てる

- ・「ちゃんとお聞きにならなきゃいけない」と叱ってやってくださいね。
- ・日に一回くらいはしっかり抱いてあげてください。あなたのことを大好きな人がたくさんいるのよ、と愛情を示すためです。
- ・聞き分けの練習が大切と思われるので、ナルちゃんなりに納得のいく説明をして、してよろしいこと、してはいけないことが分かるようにしてください。

これは「ナルちゃん憲法」からの抜粋です。当時（昭和40年前後）話題になりましたので、私たちの世代なら知っている方がいるかと思えます。「ナルちゃん憲法」とは、天皇陛下（徳仁親王）を育てられた美智子上皇后様の育児ノートです。

天皇陛下は、学習院高等科の最初の英語の授業で、「将来何になりたいかを書きなさい」という課題に対し「私は必ず天皇になります」と回答されています。その真意を40年後にアメリカ報道機関に「普通の日本人だった経験がないので、何になりたいと考えたことは一度もありません。皇室以外の道を選べるとは思いません。」と説明されているそうです。そんな特別な立場にある天皇陛下を育てるうえで、美智子様がしつけに一貫性がなくなることを避けたいと考え、世話役の侍従や女官に向けて書いた育児ノートが「ナルちゃん憲法」なのです。「将来の天皇陛下を育てる」その責任の重さや重圧は私たちには想像もできないものだったでしょう。

しかし、その内容を見てみると、上に書いたように特別なことが示してあったわけではなかったようです。むしろ特別な立場であるだけに、特別ではない、人として大切なことを教えていこうとされていたことが伝わってきます。

美智子様はこうもおっしゃっています。

「幸せな子」を育てるのではなく、どんな境遇に置かれても「幸せになれる子」を育てたい。

普通の子育てをしている私たちの心にも真つ直ぐに届く、大切に素敵な言葉です。天皇になると分かっている子を育てながら「どんな境遇に置かれても」という言葉が入っていることにこの言葉の奥深さを感じます。内容を見てみると、「幸せな子」は、回りがそのように育ててくれると考えてよさそうです。しかし、「幸せになれる子」は、自ら考え、自ら判断し、自ら行動できるように、回りが支え導いていってこそ育つと考えられます。私たちはそのような子どもたちを育てていきたいものです。いや、今の時代はそのような子どもを育てていけないといけないのです。正に現代の子育てにもつながる言葉だと言えそうです。これからの時代は「ますます先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代」になることは避けられそうにありません。（個人的にはあまり良い時代とは思えないのですが…もう後戻りはできないようです）そのような時代で重要になる力は「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲（OECDが打ち出した「Agency【エージェンシー】」）だと言われています。将来的にそのような力を身につけさせるために、子育て世代がキーワードとして持つておけるのが「『幸せになれる子』を育てる」ことではないかと思うのです。これは本校が定めている「学校として育みたい資質・能力『自律（自立）、そして自尊感情と他者意識』」にもつながるものだと考えます。

学校教育は、一方的、受け身で発信の少ない「暗記・再生型」の教育から、主体的・対話的で協働的な「思考・発信型」の教育への転換が求められています。そのため本校では「自己決定」を大切なキーワードにして取り組んでいます。授業はもちろん、すべての教育活動において「どうすればよいのか」「どうしたいのか」をしっかりと考えさせる機会をもち、自らの意思で決定し、決定したことを実行に移し、その結果を受け止め、次の自己決定に生かす。このプロセスを大事にしているのです。これをスパイラルに繰り返すことで、Agency【エージェンシー】の基盤を育てていきたいと思っています。

「幸せになれる子」を育てるために…